

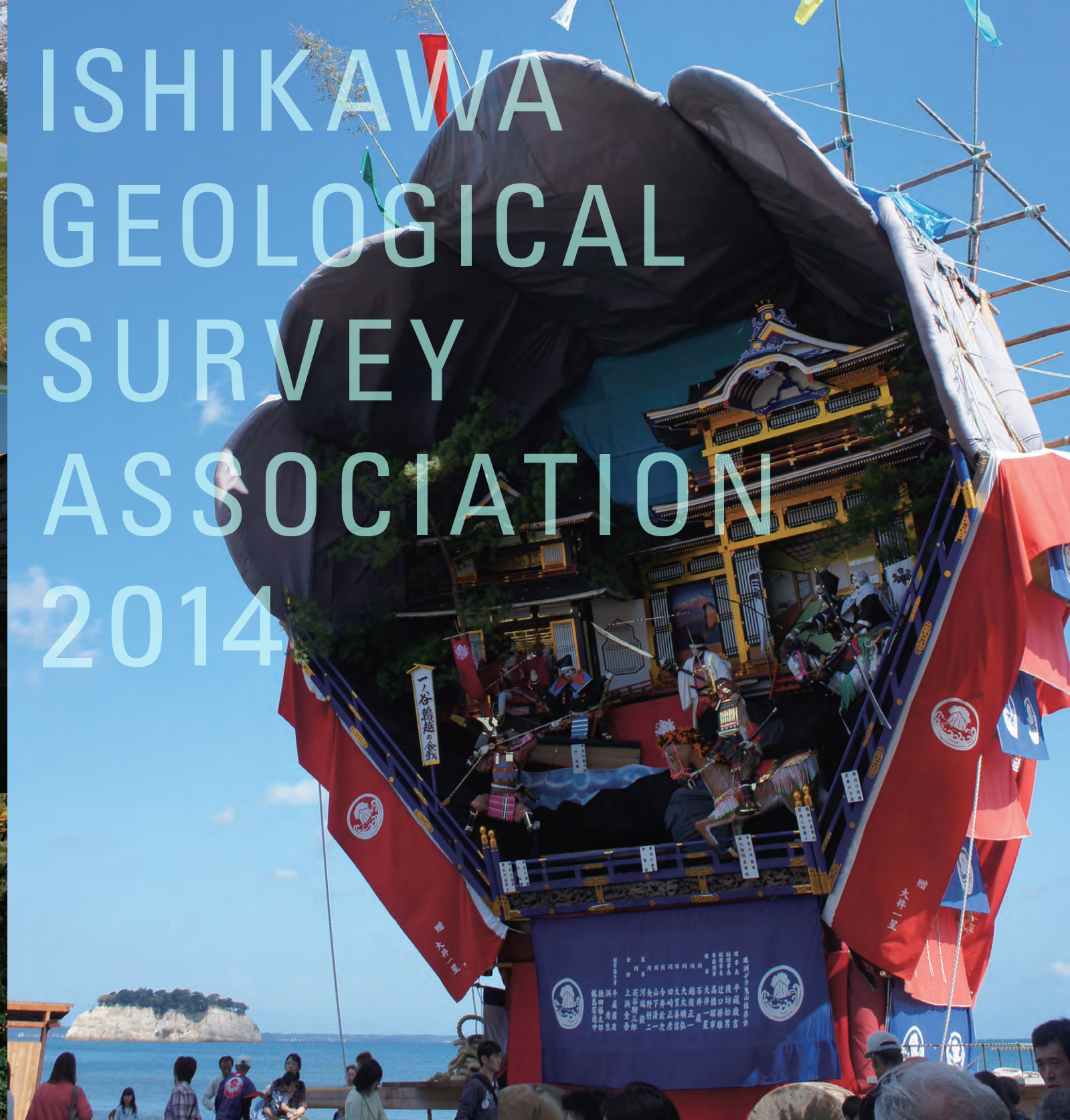
地質いしかわ

No.68

2014年
2月
発行号



ISHIKAWA GEOLOGICAL SURVEY ASSOCIATION 2014



珠洲デカ曳山まつり(珠州市宝立町)

特別対談

加賀市長／宮元 陸 × 石川県地質調査業協会会長／尾蔵 博 × 石川県地質調査業協会理事／市山 勉
加賀市から変えていく、日本の観光、ものづくり、先進的施策

行政のささやき

能登空港開港10周年を迎えて
のと里山海道

シリーズ 「世界農業遺産」

〈珠洲市編〉 自然と共生する珠洲市を目指して
〈能登町編〉 里山里海を守り続ける
〈穴水町編〉 農業遺産は人と人をつなぐ架け橋



IGS
ISHIKAWA GEOLOGICAL SURVEY ASSOCIATION

一般社団法人 石川県地質調査業協会

〒920-0059 金沢市示野町西7番地
TEL 076-267-3244 FAX 076-267-3271
URL <http://www.ishikawa-geo.or.jp>
E-mail info@ishikawa-geo.or.jp



会長挨拶

president greetings



第68号 発刊に際して

”地質いしかわ”第68号は、ご多忙中にも関わらず多くの方々の格別なご協力によって発刊させていただきました。事となり、一言ご挨拶申し上げます。

平素は（一社）石川県地質調査業協会ならびに会員各社に対し格別のご指導とご支援を賜りまして、厚く御礼申し上げます。

第68号の主な内容としては、特別対談として、加賀市長 宮元 陸氏から、新市長に就任されての街づくりについての抱負や市政についての熱い思いをお聞かせいただきました。

また、前号に引き続きシリーズ「世界農業遺産「能登の里山里海」について、珠洲市、能登町、穴水町における今後の抱負と取り組みについて、貴重な寄稿をいただきました。

（一社）石川県地質調査業協会会員企業は、脆弱でかつ地域の複雑な地形・地質を熟知した地質に関する専門技術者集団として様々な技術を蓄積し、そのノウハウを駆使して社会資本整備や地質・土砂災害、土壌・地下水汚染等の環境問題を通して社会に貢献しています。このため、当協会および会員企業

は技術の研鑽を重ね、人材教育に最大の努力を注ぎ、県民の安全・安心な生活を守るため、より一層の社会貢献をする所存でございます。

関係各位におかれましては、今後とも当協会並びに会員企業に対して一層のご指導、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。ご挨拶といたします。



一般社団法人
石川県地質調査業協会
会長 尾蔵 博

5. Free talk フリートーク

ヨーロッパ人旅

株式会社エオネックス 割田 翔 27

私と弁天夢太鼓

能登建設株式会社 田中 佑里恵 28

従事して感じることは...

古一地下開発株式会社 中村 陽一 29

6. 社長のつぶやき

旅のつぶやき

株式会社カナイワ 代表取締役 普輪崎 賢彦 30

2020 東京オリンピック

株式会社のとさく 代表取締役 明星 加守暢 31

7. 協会ニュース

技術講演会 32

北陸技術フォーラム 33

安全研修会 34

経営者研修会 35

8.

編集後記 40

■表紙... 城下町大聖寺川流し舟(山中)、柴山湯 屋形船(片山津)、
こおろぎ橋(山中)
〈写真提供 石川県観光連盟〉

ISHIKAWA
GEOLOGICAL SURVEY
ASSOCIATION

1. 会長挨拶

第68号 発刊に際して

(一社)石川県地質調査業協会会長 尾蔵 博 01

2. 特別対談

加賀市から変えていく、日本の観光、 ものづくり、先進的施策

加賀市長 宮元 陸
(一社)石川県地質調査業協会会長 尾蔵 博
(一社)石川県地質調査業協会理事 市山 勉 04

3. シリーズ「世界農業遺産」

「能登の里山里海」珠洲市 自然と共生する珠洲市を目指して

珠洲市自然共生室次長 才式 嘉明 12
兼自然共生係長

「能登の里山里海」能登町 里山里海を守り続ける

能登町企画財政課 主幹 西谷 幸一 14

「能登の里山里海」穴水町 農業遺産は人と人をつなぐ架け橋

穴水町産業振興課 課長 宮下 謙二 16

4. 行政のささやき

能登空港開港10周年を迎えて

石川県奥能登総合事務所 所長 浅井 豊樹 18

のと里山海道～無料化後の維持管理について～

石川県中能登土木総合事務所 次長(のと里山海道担当) 高谷 文夫 22



九谷焼工芸体験



温泉たまご



大聖寺 十万石まつり



山代温泉まんじゅう食べくらべ



山中漆器(ロクロ挽き木地)



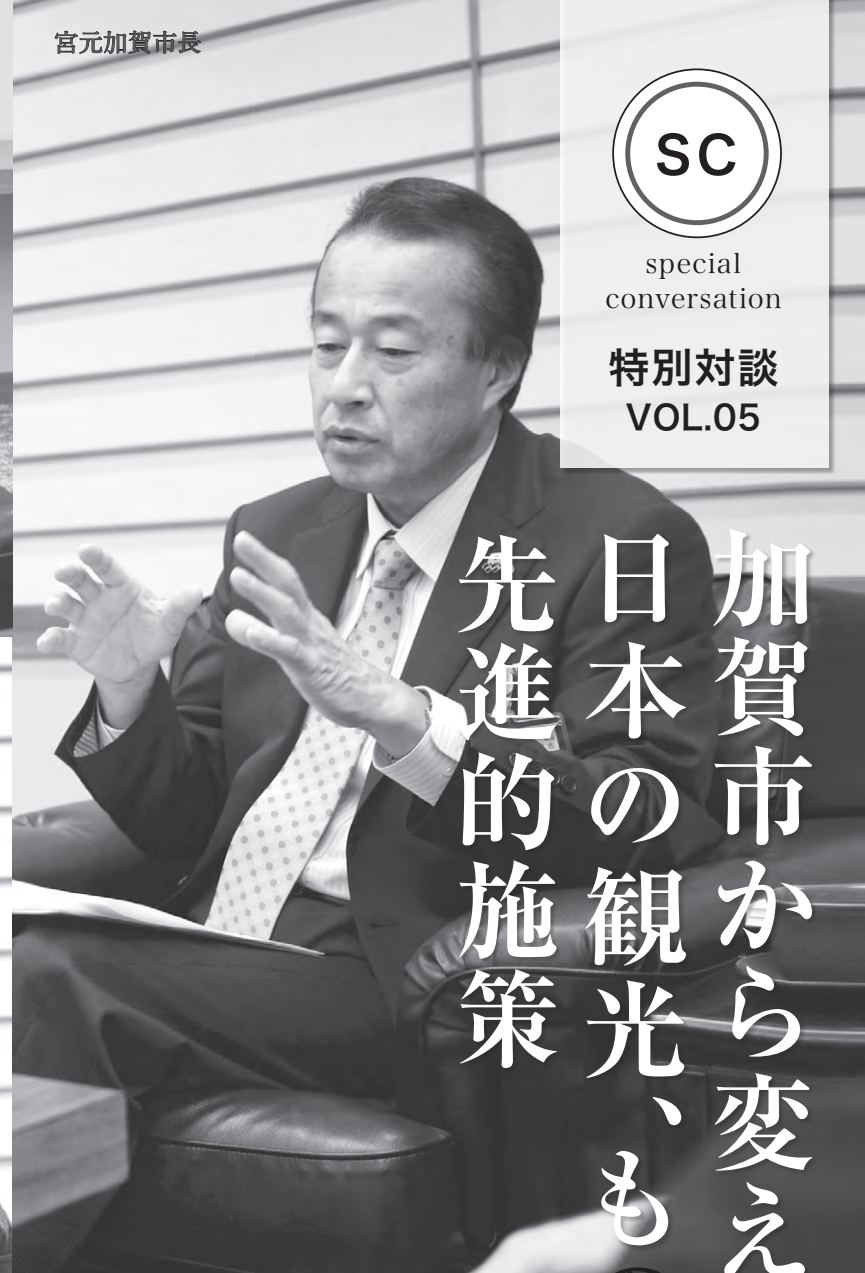
橋立漁港



尾蔵会長



市山理事



宮元加賀市長



special
conversation

特別対談
VOL.05

加賀市から変えていく、 日本の観光、ものづくり、 先進的施策

加賀市長

宮元 陸

(一社)石川県地質調査業協会
会長

尾蔵 博

(一社)石川県地質調査業協会
理事

市山 勉

2013年10月に、県議会議員を経て加賀市長に就任した宮元陸氏に、
選挙の際に掲げたビジョンや、まちづくりへの熱い想いを伺いました。

PROJECT 01

北陸新幹線開通
後をも見据えた
観光政策

市山：地質調査業協会では毎年「地質いしかわ」という広報誌を発行しておりまして、今年は加賀市長のお話をお聞かせいただきたく思い伺いました。どうぞよろしく願っています。

宮元市長：取材と聞いていましたので、お二人かお二人でおいでるものだと思っていました（笑）。私は地質調査業と大分ちがう人間なので心配しています。

市山：加賀市は、温泉地ということで協会に関わることも多いんです。それで市長さんがビジョンの中で掲げている「温泉共創地」というキーワードは私たちから見しても非常に面白いなあと思いました。あと、ビジョンの中で金沢駅から加賀温泉の駅まで独自の列車について書かれていたんですけど、具体的なお話をお聞かせください。



はづちを楽堂



納涼花火まつり



九谷焼窯跡展示館



坂網猟



鴨料理



鴨池観察館

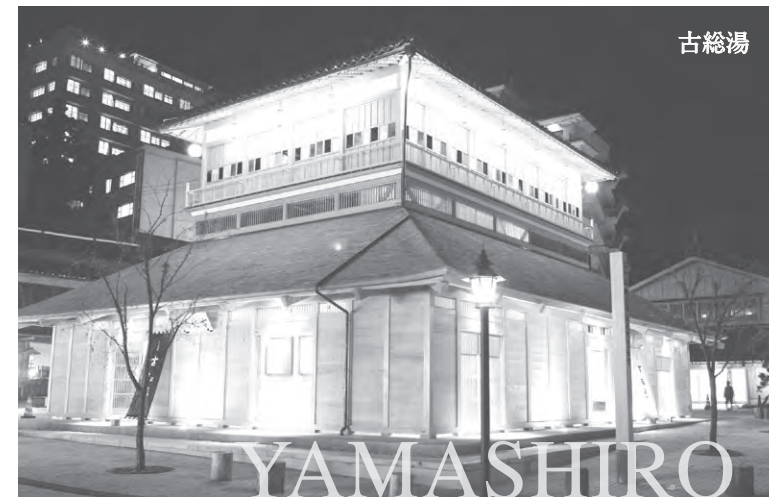
ですか。
宮元市長…近年まで廃業旅館が増え、その廃業旅館によって温泉地としての景観や魅力を損なう状況がずっと続いたんです。それで廃業旅館を取り除いて景観を作りなおそうということで、当時の市長さんは公的資金で廃業旅館を安く買い取り、更地にして新しい公衆浴場などを作ったりしていました。放置しておくとは荒れ放題になってしまつて大変なことになっていましたから、自治体が動いて整備しないといけなかつたんだと思います。今は、廃業旅館の取り除きはある程度出来ましたが、経営の厳しい旅館がチェーン店に買収されてコストダウン競争になってきています。本来温泉地というのは裾野の広い産業で、接

待さんを含めていろいろな雇用があり、大きな町を形成していたんです。しかし、今はコストダウンの風潮のなかで省力化し、人を雇わないようにしようという流れにあります。また、コストの問題で、これまでの旅館のコストにも影響を与えていて、温泉地を維持していくのは厳しい状況にあります。それで入湯税というものがあるんですが、本来、旅館ホテルに宿泊された方々からいただく税金で目的税なんです。しかし、これまでちゃんとした還元ができていなかったで、これからは還元して宣伝活動や温泉地の振興など、各温泉地が独自で使えるようにしたいと思っています。それともう一つは、新幹線を見越して戦略的な宣伝をしたいんですが役所では難しいですね、プロ

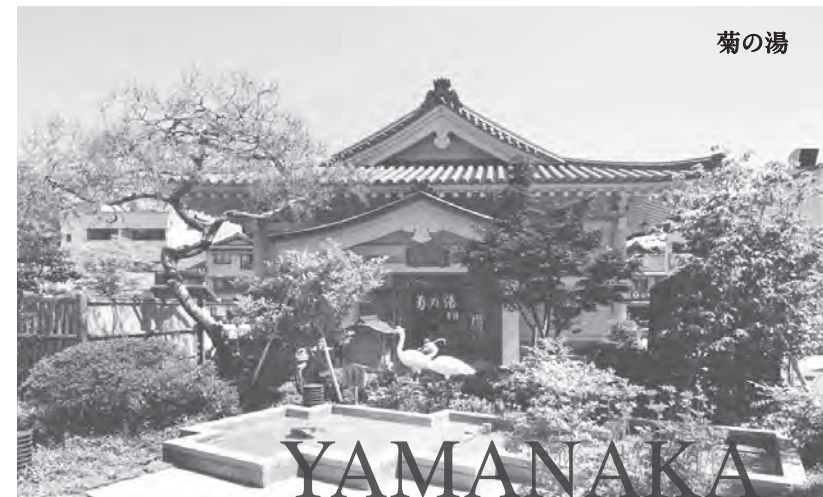
でないのです。だから、そういう部門をつくって、あんまり時間もないものですからプロの専門家に早急に依頼して練り上げようと、今準備しています。プロの意見を聞いて、どこに有効なお金をつまむかということを考えていかないと、やっぱり役所の考えた役所の宣伝じゃ効果は難しいと私は思うんです。それから各温泉地で独自に工夫してもらつた施策についても市として応援していきたいと思っています。例えば山代・山中・片山津それぞれの温泉地のB級グルメじゃないですけど、地元食材をつかった面白い美味しい料理をPRしていくようなことをやろうかなと思っています。今考えているのは、鴨料理です。鴨は、加賀市の片野の鴨池でしか野生の鴨を獲ること



街湯



古総湯



菊の湯

ていますけど、すべてそこに絡んでくるということですか。
宮元市長…そうですね。まずは一番喫緊の課題は新幹線の開業効果をとにかく最大限に引き出すことです。しかし、新幹線の開業効果が10年も20年も続く訳はないので、やはりそこを見据えた上で将来どうするかということが次の展開になってくるんです。ビジョンの中でアジア云々と申し上げたのは、アジアの成長の力は大きいですが、やはりこのアジアの活力をどう取り込むか、ヒトやモノの流れをどう獲得していくかということが大事だと思うんです。
市山…たしか市長さんは、県議会議員時代から台湾便などの誘致活動をかなり一生懸命されてこられて、増便になった時も中心になっていらしたんですよね。
宮元市長…あれは布石があつて、日本の県議会と台湾の県議会が友好協定を結んだのは日本で石川県が初めてだったんです。当時、地方の自治体が台湾との関係を持つとうとするのは、中国との関係もあり他の自治体は及び腰だったんです。でも、金沢には八田興一技師の関係もありましたし、元々民間的交流もあつたので、石川県こそが姉妹都市関係を結ぶべきだと何回も県に言ってきたんです。それでも難しかったものですから、県議会が主導でやろうという

ことで、八田技師の烏山頭ダムのある台南県の県議会と友好協定を日本で初めて結んだんです。そういうことが基盤になって、台湾便の定期便の誘致に繋がったんです。
市山…台湾便というのは利用者が多くて、金沢へ来る人もいれば、三温泉に宿泊されたりゴルフの利用客も多いと聞かれています。
宮元市長…そうですね。県内での台湾人の宿泊者数は年間6万5000人ほどで、石川県に來られる外国人観光客の断トツです。そういうインバウンドというのはすぐにはなかなか実績が上がらないので、そういう国際交流の積み重ねが大事なんです。例えば北海道にはシンガポールからかなりの観光客が行っています。それはずっと前から北海道がシンガポールへ働きかけをしたり交流をしてきたからなんです。こういう効果は一朝一夕では無理なので、交流を積み上げていくということが温泉地には一番大事なんです。
市山…温泉地といえば昔はどこも活気があつたと思うんですけど、ここ数年は安い温泉のビジネスモデルに押されたり、温泉地自身の力がすこし薄くなっている感じがします。加賀市では温泉地の活性化にどのような仕掛けをお考え

ができないんです。そして、この猟が坂網猟という長い伝統のある加賀独自のものなんです。
市山…鴨池にはバードウォッチングをしないと、多くの方が行かれていますよね。
宮元市長…そうですね。鴨池観察館というのは全国でも屈指の観察館なんです。五、六本の指に入るほど有名で、世界的にも有名です。

PROJECT 02

不況に、 屈しないための ものづくり技術の 集積地化

市山…ものづくり技術の集積地づくりということをビジョンの中で書かれています。具体的なお話をお聞かせください。

宮元市長…加賀市はこれまでどちらかと言うと、観光オンリーだったんです。しかし、皮肉なことに観光の実績は上がってないんです。そういうことを考えた時に観光は景気に翻弄されますが、ものづ

くり産業は雇用の足腰になるものであり、自治体のやるべきことが一杯あるんです。だからもう一度自治体としての姿勢を明確に打ち出していこうと考えています。それでいろんな企業から話を伺うと、自治体としてやってもらいたいもの、一つは人材の供給なんです。しっかりと教育された学生を企業に送り込んで欲しいと。だから、企業が望む人材を送り込んでいく仕事を自治体がやらなければならぬというのが一つ。あともう一つは、企業集積地になることです。例えば小松市はコマツ（小松製作所）を中心とした企業集積地になっていますし、能美市は東レや日本ガイシなど有名企業があつて企業集積が進みつつあります。企業集積というのは異業種交流にもなる訳で、異業種交流を積み重ねていくことでいろいろな付加価値のある製品を生み出し、技術交流ができたり、企業が有機的に結びついていくんです。それらをコーディネートしていく自治体の役割が一番重要だと言われている、単体で企業誘致した場合は景気が悪くなるとすぐ出ていきますが、異業種交流ができている所では不況になつても企業が出て行かないんだそうです。加賀市はどちらかというと完成部品のメーカーがなくて部

品になつていただければいいと思います。

宮元市長…自治体はやっぱりもつと関与できるはずなんです。労働組合が特に望んでいることかもしれないが、公契約を結ぶにあたつてなるべく子育て関係に会社として積極的、定期的に取引組んでいるところを優先的に契約しますよとか、公契約条例は組合関係の方々がつこう強く望んでいます。最低賃金の考え方はいろいろとありますが、なるべく地域地域でインセンティブを働かしていこうということでして、ワークライフバランスにいかに取り組んでるかということ、公契約の条件にする時代に少しずつなつていくんだろうなあと、思います。

PROJECT 03

加賀市への定住を促す、子育て世代への負担軽減

市山…今の話に関連するんですが、ビジョンの中で言われている「子供から高齢者

食い初めカニまつり



片山津温泉 浮御堂

メーカーが多いんですが、ニッチトプミたいな優れた技術を持つ企業が幾つもあるんです。そういう企業を結びつける役割をぜひやりたいなと思っています。

市山…今年の厚生労働省の統計だと3年以内に退職してしまう学生の割合が大学生が3割で、高校生が4割でした。それで定着率もさることながら、下手工たら挨拶からまた教育しないといけないということになるんです。それをUターンでも何でもいいんですが、帰ってくる人材の情報を各企業がもらったりすると、確からしい情報になっていくと思いますし、市としてやっていただけるとすごい有り難い話だと思います。

宮元市長…役所は今なんとなく足踏みしているような感じもするんです。例えば、これまで銀行の担当者や自治体の担当者が一緒に中々企業へ出向き、いろんなニーズを聞いて回ること、をしたことがないんです。そういうことをやらないとどこからニーズを吸い上げるのという話になるし、現場の声も分からないし、そういうことをやる時代だと思います。中小企業振興条例というの、どちらかというとそういうニーズを汲み上げて仕組みを作っていくというものは勿論ですし、やっぱりお金を地元で回

クトを受けたんですけど、例えばどのようなことでしょうか。

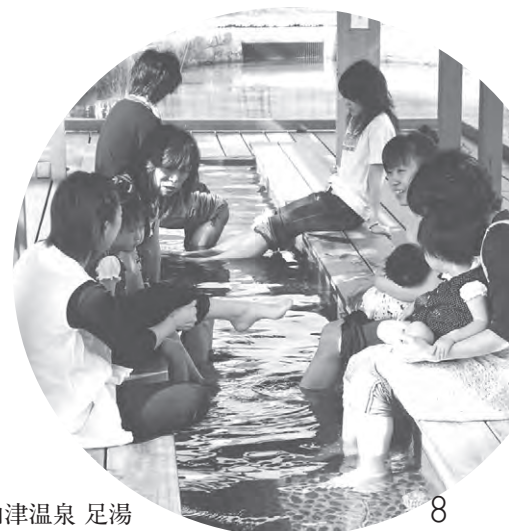
宮元市長…子育ての負担感を強く感じているのはだいたい年収300万円あたりの世帯なんです。所得に応じて変えるしかないと思うんですけど、過重な負担を持つているところに月1万円の保育料の軽減というのはすごい画期的なことになると私は思っているんです。こんなこと普通はやってないですから。

尾蔵…小・中学校などの義務教育に關してはどう考えですか。

宮元市長…高校の無料化の話もありましたが、私が考えているのは医療費の負担軽減です。いわゆる後からお金で還付されるようなやり方でなく、とにかく最初から窓口を無料化にしていったらいいと思うんです。

尾蔵…最終的には子供を産みやすい育てやすい環境をつくって、人口増を図りたいということですか。

宮元市長…そうです。子育ての負担感を感じているのは30〜40代あたりだと思ふんで、その世代の軽減を図っていくことにけっこう期待されているんです。当初予算で是非やりたいなあと、思っているんです。



片山津温泉 足湯

すという仕組みをつくらないといけないと思うからなんです。材料を他から買ってきて安からうではいけないと思うんです。地域で資金が還流するようにしていかないと。アメリカの各州によつては法律で決めている州もあるんです。なるべく地元で金を落とせよと。建設なんかでもそうじゃないかと思うんです。他の県や市町村から安い部材を仕入れるのでなく、なるべく地域からお願いしたいということなんです。

市山…雇用能力開発センターの補助金で雇用なんかに活用して欲しいというところでホームページやパンフレットなどに使える予算がありまして、一昨年までが私どもの協会だったんですが、その後に取り入れたのが加賀市の部品メーカーの30社ほどの組合でした。そういう情報はいろんな企業が欲していると思うんですが、それを市に窓口



対談風景

加賀市長
宮元 陸

(一社)石川県地質調査業協会会長
尾蔵 博

(一社)石川県地質調査業協会理事
市山 勉

SC

PROJECT 04

加賀市からはじまる、 政策先進都市

市山…市長は市民主導のまちづくりを掲げていらつしやいますが、政策先進都市とはどのようなものなのでしょうか。

宮元市長…自治体は国とちがつて国の法律を超えるものはありませんけど、国の法律の範囲内で先進的な条例などをつくれるんです。だから日本中の自治体が真似したいと思うような政策や条例をつくる

市山理事



ことで、加賀市の近隣の地域や他の自治体にも影響を与えることができ、ひいては国も変えていくことができるんです。しかし、当然それには議論も必要ですし、二元代表制の一翼を担っているのは議会ですから議会の意見は最も尊重しないといけないと思います。そして市民の声をどのように吸い上げていくか、ということが重要になってきます。

尾蔵…これまでのお話をお伺いして、市長さんのやることがいっぱいあるなあと思っただんですが、一番最初にまず何からやりたいとお考えですか。

宮元市長…加賀市は人口が減っていつてる訳ですから、子供を産み、育てて、ここで生活をしていただけるような環境を整備しないと、衰退の一途になってしまうと思うんです。

尾蔵…環境づくりからということですね。

宮元市長…そうです。さつき申し上げたような子育て世代の負担感を軽減していかないといけないし、職場もつくっていかないといけない。そういう環境づくりが大切だと思っんです。わたしは元々教育関係に力を入れてやってきたので、加賀市に行けば教育的によくなるとか、そんな所まで行けばたら最高だなあと思っています。それともう一つは、公共インフラの維持修繕対策で

ンフラの整備、維持修繕にお金がかかる訳で、箱ものばかり作ってどうするんだという話になるんです。

市山…私も市長の意見に大賛成です。今あるものを再生していかないといけないですよ。

宮元市長…加賀市は多極分散都市なんです、それぞれにコンパクトシティを作っていくべきだと思うんです。住みやすい町を今の町でしっかりと作っていく以外にないと思うんです。50年後には石川県の人口は市並みの人口になりますから、放っておくと限界集落がいつぱい出来ます。しかし、今変えればよくなると思います。そのためにも将来孫の代まで負担がこれだけかかるということを言わないといけないと思います。議論から逃げずに、真剣に考えることが大事だと思うんです。

市山…時間を少しオーバーしてしまいましたが、ここで終わらせていただきたいと思っています。今日は貴重なお話を本当にありがとうございました。

宮元市長…こちらこそ遠路はるばるおいでいただき、ありがとうございました。



対談出席者

加賀市長	宮元 陸	(一社)石川県地質調査業協会事務局長	西村 修
(一社)石川県地質調査業協会会長	尾蔵 博	総務・広報委員会委員長	宮下 正久
(一社)石川県地質調査業協会 総務・広報委員会担当理事	市山 勉	総務・広報委員会副委員長	中村 有宏
		総務・広報委員会委員	畠中 信英

写真提供：加賀市、加賀市鴨池観察館、(一社)加賀市観光交流機構、石川県観光連盟

す。公共インフラは50年以上経過したものが多くほとんどが老朽化していて、その維持修繕費用はわたしの個人的な試算だけでも全部やり変えたら40年間で1,600億円ほどかかるんです。それだけで加賀市は財政破綻します。試算をやつて今後40年間のまちづくり計画をどうするか、そこが将来の備えの部分になるんです。先ほど言ったような観光誘客やものづくりなどの成長戦略とは、ブレーキとアクセルみたいな関係なんですけど、両方同時にやらないといけない。非常に難しいんです。

市山…確かに学校などの教育機関も含めてインフラは古くなつてますよね。

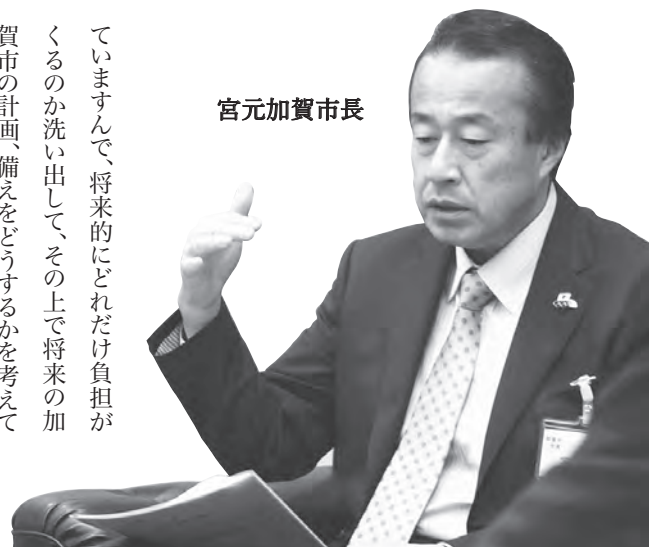
宮元市長…石川県でそれをやっている自治体は実はつもないんです。すでに私は当初予算でそこに取riかかるよう指示し

ていますんで、将来的にどれだけ負担がくるのか洗い出して、その上で将来の加賀市の計画、備えをどうするかを考えていかないといけないと思うんです。これは非常にオープンな議論なんです。いいことばかり言えないんです。

市山…確かに市長さんのビジョンは前向きなこと書かれていますけど、これまでの悪い点も書かれていらつしやいますよね。

宮元市長…悪いことを言い出すとにつちもさつちも行かなくなるから誰も言わないんです。民間だったら老朽化への備えの積み立てをやっているじゃないですか。しかし役所は一つもやってないんです。昔の加賀市の計画では加賀温泉駅前に公共施設を一大集積地として作るということだったんですが、それには莫大なお金がかかります。加賀市は多極分散都市ですから、新しい核を作つたらまたイ

宮元加賀市長





農家訪問
(里山里海マスター)



ワークショップ(里山里海マスター)



いぎもの観察

揚げ浜式製塩



シリーズ
「世界農業遺産」

Globally Important
Agricultural Heritage
Systems

珠洲市

自然と共生する 珠洲市を目指して

Suzushi

Notochou

Anamizumachi



珠洲市
SUZUSHI



珠洲市自然共生室次長
兼 自然共生係長

才式 嘉明

能登での「世界農業 遺産国際会議」開催

「ここにも何かおるぞー」。さわやかな初夏の青空が広がる中、遅い田植えを待つ小さな棚田に、赤いジャージ姿の地元中学生たちの声が響きます。平成25年5月31日、日本で初めて、そして世界的にも首都以外で、しかも認定地で初めて開催された「世界農業遺産国際会議」の3日目、本市三崎町小泊でのエクスカージョン(現地視察)の実施に合わせて行われた「いぎもの観察会」での1コマです。長靴姿でタモヤトレイを持ち、資料と見比べながら採取・観察を続ける生徒たちを、邪魔しないように遠巻きで見ていたのは、隣国・韓国からの参加者たちでした。

認定から2年半が経過

私たち珠洲市を含む能登サイト(※認定地域を「サイト」と呼びます)が平成23年6月、佐渡とともに日本で初めて世界農業遺産(GIAHS:ジアス)に認定されてから早や2年半が経過しました。能登の4市4町(当時)による

生物多様性への 取り組み

この「世界農業遺産(GIAHS)」がユネスコの世界遺産と違うのは、認定されたその地域独特の農林漁業等を基盤とした「地域システム」を一体的に維持保全し、認定以後もその活用を図りながら次世代へ継承していく点にあります。すなわち、認定要素とされた豊かな自然環境やさまざまな地域資源等について、しっかりとした保全が為されなければ、その十分な利活用はできませんし、また、十分な利活用が為されることによって、はじめて保全に対する

大学連携による 人材育成

に向けた活動に使われるなど、さまざまな住民活動の展開・推進に活かされています。

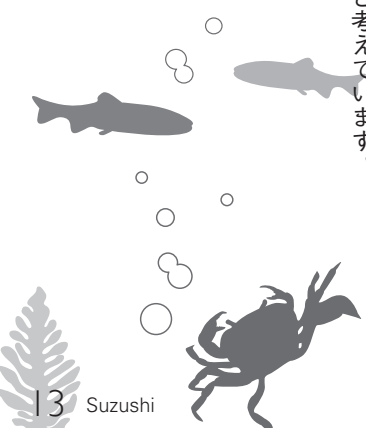
そして何よりも、今後この能登サイトにおける世界農業遺産(GIAHS)の利活用と保全・継承を支える地域人材の育成を目的とした「域学連携」の取組が、本市三崎町小泊の廃校舎を活用した「能登半島里山里海自然学校(金沢大学能登学舎)」を拠点に進められています。平成19年度から23年度までの5年間に実施された「能登里山マイル・養成プログラム」では、これまでに62名の修了生を輩出し、その多くが現在も奥能登地域をはじめ各地で活躍しています。すでにその第2期である「能登里山里海マイルスター」育成プログラムもスタートしていますが、こうした取組に伴い、市外からの受講生等による移住・交流の機会が増加するとともに、こうしたプログラムを通じて新たなつながりが生まれ、今後の能登地域の活性化への新たな可能性が膨らんでいます。

自然と共生する 珠洲市へ

このように、「保全なくして活用なし、活用なくして保全なし」という世界農業遺産(GIAHS)ではあります。が、これを次世代へ継承していく上で

は、地域の実情を踏まえた利用と保全の行動計画(アクションプラン)の実施と検証が不可欠です。市内の豊かな里山里海資源の、何を活かし、何を守っていくのか、実際に時間と年月をかけて検証していく仕組みの構築が求められています。本市でもこれまでの取り組みを基に、その把握や検証に努めていきたいと考えています。

本市では「半島最先端」という地理的条件や、豊富な自然環境を守り・活かすという観点から、これまでも風力発電をはじめとした新エネルギー事業やバイオマスタウン構想、温暖化対策等にも積極的に取り組んできました。こうした本市にとって、世界農業遺産(GIAHS)の持つ理念は、まさに私たちの地域が目指す理想と言えるものでもあります。今後ともこのGIAHSを通して地域のさまざまな特長や魅力を幅広くアピールしつつ、地域が一体となって活性化に向けた可能性を追求するとともに、全国に、ひいては世界に誇れるような「自然と共生する珠洲市」の構築に向けて取り組んでいきたいと考えています。



シリーズ
「世界農業遺産」

Globally Important
Agricultural Heritage
Systems

里山里海を 守り続ける



能登の魅力を見直して

一言で言えば「何もない」、長く地元に住む者にとっては、そう表現するしかできない風景が広がっています。そこにあるのは、厳冬の白から春の新緑、盛夏の濃緑から秋の紅葉へと毎年繰り返される里山の景色、町の最高峰鉢伏山に自生するブナ林から海に続く丘陵地帯とその先の海に浮かぶ立山連峰、農林業と漁業を主な産業として先祖代々伝えられてきた日々の暮らしです。あまりに当たり前と思っていた日々の生活に、ある日「そこに価値があるですよ」、そう突然に言われても、地元に住む者にとってはその理解が難しいのが実情ではないかと思えます。その様な中で平成23年6月に能登地域が「世界農業遺産」に認定されたということは、住民が地元の資産価値を改めて見直すよい契機となったのではないのでしょうか。



能登町
NOTOCHOU

2

地元の伝統文化
歴史の付加価値への
取り組み



能登町企画財政課 主幹

西谷 幸一

奥能登を代表する農耕儀礼の「あえのこと」は、言うまでもなく「世界農業遺産」を構成する要素として重要なものです。町内でも以前から保存会を結成し、その伝承に奮闘している地区もあります。しかし、本来は「あえのこと」にたどり着くまでには、様々な農耕儀礼が存在しておりました。その様な今は途絶えてしまった、或いは一部で細々と続けられている農耕儀礼の復活伝承に、「世界農業遺産」登録を機に取り組み始めた集落があります。生き物調査、苗の手植え、稲の手刈りに稲架かけという農耕作業等の体験や伝承、世代間交流に加え、水口（みなくち）祭、仏式の虫送り、水田に稲二才を組んで田の神への収穫量の報告や刈上祭の復活等、古老の記憶や旧町村史を頼りに集落全体が参加して「あえのこと」まで繋げようとして取り組んでおります。将来的には集落内農林産物の付加価値向上につなげたいと

春蘭の里(秋)



稲二才

人口減少と
維持継承について
の問題

の意気込みもあり、今後の活動に大いに期待をしているところです。更には、公益信託能登町エンディバーファンドの応募状況においても、地元の歴史や伝統文化を活用した取り組み内容での申請がみられるようになり、住民の地元の資産価値に対する考えも変わり始めたと感じております。

しかし、「世界農業遺産」に登録され住民意識に変化が表れてきたことは非常にうれしいことではありますが、近ごろ発表されました国立社会保障・人口問題研究所の推計人口では2040年頃には人口が約半分になるかもしれないという報告もなされており、過疎、高齢化の流れの中で里山里海を守っている今の住民の暮らしを、今後はどの様に維持していくかという問題を改めて突き付けられた思いでもあります。この集落もあと何年かすると軒数が半分以上になる、「特に「世界農業遺産」の重要な構成要素である里山や水田を維持する集落で会合のたびに聞かれる言葉であります。単に景観や伝統を維持継承していくだけでは所得は生まれずやがて住人がいなくなります。人が住んでいて成り立つ里山里海であり、景観や伝統の維持と所得向上をリンクしていかなければなりません。



刈上祭



生き物調査



あえのこと

地域おこしへの
取り組み

その様な中、当町の宮地地区、ここにある農家民宿群「春蘭の里」は、いち早く地元の自然や伝統文化等に着目した有志が、「月収40万円」を目標に試行錯誤を重ねつつ、地元住民や外部の共感者を巻き込みながら活動を発展させ、今では四季折々の様々な体験メニューを来客者に提供しており、リピーターや修学旅行生の受入も含め国内・外からの来客数が年間1万人にも届く勢いに成長しております。平成25年10月29日には全国農業担い手サミットにご臨席されるため、本県に行啓された皇太子殿下が「春蘭の里」の取り組みをご視察されており、全国に成功例として紹介される地域おこしのお手本が町内に誕生しました。

今後とも町では、「世界農業遺産」登録を契機に町内に芽吹いた新たな地域おこしの芽を大きく育てるため、「春蘭の里」を成功の1つのお手本としながら、地域の自然や伝統等の特性、住民の所得向上を念頭に入れ、農林水産業の経営基盤強化、担い手育成事業等の事業を、地域住民のみならずと一緒に考えてまいります。

シリーズ
「世界農業遺産」Globally Important
Agricultural Heritage
Systems

Suzushi

Notochou

Anamizumachi

遠藤関も参加した
沖波大漁まつり農業遺産は
人と人をつなぐ架け橋

穴水町

国際会議が
能登で開催！

平成25年5月29日から6月1日までの4日間にわたり、国内外から600名を超える参加者を迎え、「世界農業遺産国際会議」が七尾市を主会場として開催されました。

今回の会議は、首都以外の認定地域で開催するという、国内初とも言える先駆的な取組で、従来学術的な色彩の強かったこの会議に、国連食糧農業機構の最高責任者であるシルバ事務局長をはじめ、国際機関や各国政府の政策担当者が集い、政治的な高い見地から世界農業遺産について討論する、ハイレベルセッションが始めて行われ、これまで以上に規模・内容ともに充実したものとなりました。

また記念シンポジウムは、世界農業遺産の理念や価値が農業の枠を超え、観光や物づくりなど他の産業にまで広がる「石川モデル」ともいえるべき独自の取組を国内外へ発信したほか、4コースに分かれて認定地域を巡るエクスカーションでは、「能登の里山里海」の魅力をあますことなく体験して頂く事が出来ました。

17年ぶりに復活！

穴水町のシンボルでもあり日本最古の漁法として紹介されている「ボラ待ち櫓漁」が、3年前の世界農業遺産の認定を期に復活しました。

当町では、50kmのリアス式海岸を有する年中波静かな内海地形を利用し、天保9年（1838年）からボラ網漁が行われていたという記述が残っています。また、天文学者バーシバル・ローエルが、著書「NOTO」の中でボラ待ち櫓を「怪鳥ロックの巢のようだ」と表現されています。

ボラ漁は櫓の上から回遊してくるボラを見張り、網に入るのを見はからって網口をたぐり揚げて獲るのんびりした手法の漁で、最盛期には町内で40基を超える櫓が建てられていました。

平成8年に一度漁が途絶え、その後観光用の櫓2基がモニメントとして設置されていましたが、認定をきっかけに新崎・中居の両地域で漁の再開を望む声が上がリ、地域の漁師や青年団に加え交流を続けている町外の大学生も参加し、櫓の再建が始まりました。

穴水町
ANAMIZUMACHI

3

穴水町産業振興課
課長

宮下 謙二

小さな活動で伝承！

平成25年度新規事業で実施されることとなった「こども里活まなび事業」は、多くの先人が守り伝えてきた一次産業から生まれた農法・漁法や里山里海での生業に加え、伝承文化を「里活」として位置づけ、次世代を担う子供たちが体験を通じて学び将来に伝えるために創設した事業です。

春先の水田周辺に生息する「生き物調査」を始めとして、過疎化により途絶えようとしている「虫送り祭り」への参加・復活した「ぼら待ち櫓漁」の体験、夏には海中で「キリコ」が乱舞する奇祭として知られる「沖波大漁祭り」、この秋には江戸時代から続く収穫祭の一種である「磐持ち大会」に使用する俵の製作を体験するなど、一年を通じたプログラムの中で穴水町の伝承文化を体験しています。



虫送りに参加する児童



俵作りを体験する児童

農業遺産の認定が
過疎を救う！

また、穴水高校では一昨年から原木しいたけ「のとてまり」の栽培を授業に導入し、ドングリの採集から苗木づくりと植栽、食菌そして加工から販売までを行う活動の中で、自然と共生した物作りを通して食の大切さを学ぶ事を実践しています。

将来を担う子供たちが、地域の歴史や文化・産業を知らずに社会に飛び出すのと、学んで聞いて体験して社会に出るのとでは、答えは言うまでもないと思います。但し、学ばせるのではなく、一緒に学ぶ姿勢が私たちに与えられた役目ではないでしょうか。

世界農業遺産の認定を受け、各自治体では様々な取組や施策を展開していますが、今ひとつ内側における認知度が上がらず苦労しているのが現状ではないかと感じている中で、昨年の6月に石川県を通じて「世界農業遺産の地で農業参入を行いたい意向を持った県外企業があるが、検討してみないか」との情報が入り、早々に提示された条件地の掘り起こしと可能性調査に入りましたが、情報収集不足もあり、不安を残しつつ進出企業との面談の日を迎えました。

その日は朝から雨が降り7月なのに寒く感じる日で、進出企業の車が待ち合わせ場所に到着し降りてきた

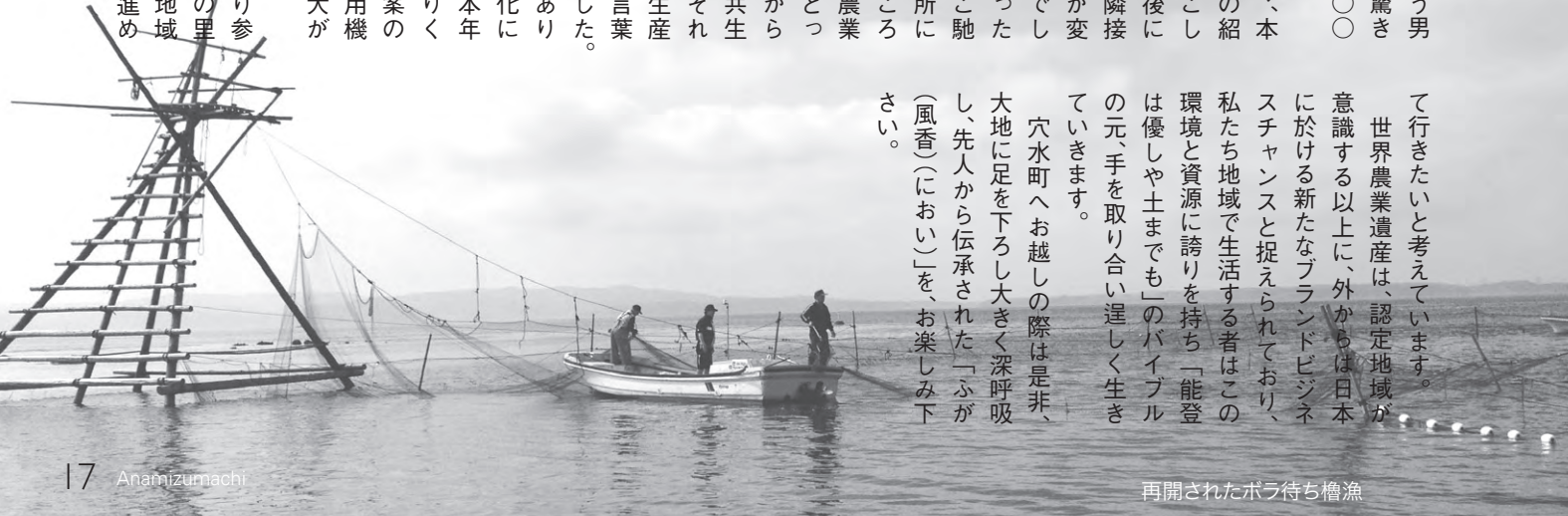
のは、50代半ばの笑顔が似合う男性でした。名刺交換を行って驚きました。株式会社○○社長○○○と記載されていました。

社長直々の現地視察と解り、本気度が覗え、私どもも候補地の紹介に力が入ったことを思い起こします。5箇所提示した中で最後に確認した能登ワイン醸造所に隣接する土地を見て社長の目の色が変わり、発した言葉が「此処だ」でした。後に、その言葉の真意を伺ったところ、会社の理念である「こ馳走するところ」を発信する場所にこれ以上の条件を満たしたところ

は無い。自然に優しい循環型農業を最終目標としている自社にとって、先人から受け継いだ生業から生まれた伝承文化と、自然と共生する里山農業が一つとなり、それが世界に認められた地で農業生産活動が出来ると直感し、出た言葉が「此処だ」と語っておられました。今、奥能登で一番の問題であり解決すべき課題は、少子高齢化による人口減少です。当町でも本年度から本格的に過疎対策に取りくむこととなり、幾つかの対策案の一つとして企業誘致による雇用機会の創出と、産業生産額の拡大が

掲げられています。

9月と10月に2社の企業より参入表明をして頂き、これからの里山農業のモデルとなるべく、地域と企業が一体となった取組を進め



再開されたボラ待ち櫓漁

行政のささやき

Gyousei no Sasayaki



はじめに

昨年、7月7日能登空港は、お陰様で開港10周年を迎えることができました。これもひとえに、多くの県民の皆様のご支援の賜と深く感謝申し上げます。

能登空港は、年々進む能登地域の過疎化を打開し、地域の活性化を推進するため、空港利用者のみならず、様々な人々が集まる拠点として建設した空港で、開港から今日に至るまで、県・市町・経済界などが一丸となって支えてきた空港であります。

空港の建設に 当たって

今から21年前の平成5年に、輪島市・穴水町・能登町にまたがる木原岳周辺が建設予定地に決定され、平成10年に工事着工、5年後の平成15年7月7日に開港しました。ここには木原岳があり（標高278メートル）、土木工事においては、水分を多く含んだ山地を削り、多量の土砂

をすべて盛土等を使用したほか、濁水処理に細心の注意をはらうなど、極力、自然環境保全に配慮した工事が行われました。

工事の施工に当たっても、大きな事故もなく、着工から5年の短期間で空港が完成したこと、そして能登半島地震の際も大きな被害もなかったことなど、工事関係者のご尽力に改めて感謝いたします。

開港前の取り組み

（1）搭乗率保証制度の導入

開港前、地元は、1日2便の確保、航空会社は、1日1便の方針をそれぞれ主張したため、中々調整が付かなかったことから、打開策として「搭乗率保証制度」の導入を提案したところ、航空会社側は、「とりあえず1年間」を条件に目標搭乗率70%で調整が付き、スタートしました。



能登空港
マスコットキャラクター
スカイのっぴー

「の」の文字をモチーフに能登空港から未来に向けて飛び立つ飛行機の姿をイメージしたもので、垂直尾翼で能登半島の形を表現し、青色と緑色で能登の美しい海や自然を表現している。

能登空港開港 10周年を迎えて

10th Anniversary NOTO Airport opening



石川県奥能登総合事務所
所長 浅井 豊樹

開港してみれば、当初の予想に反して、80%近い搭乗率をも確保し、保証金を払うどころか、販売促進協力金を受け取る結果となりました。

今から思えば、このことが、この10年間の搭乗率確保に繋がっており、航空会社との良好な関係になっているようにも思います。

（2）行政センターとの合築、 日本航空学園の誘致

全国初の取り組みとして、空港ターミナルビルと行政機関等の合築で建設されたことであります。その結果、空港ターミナルビルには、県の出先機関のほか、会議室の設置や奥能登広域圏事務組合、バスポートセンター、市町行政サービスセンターが入居し、能登地域の賑わいの拠点としての役割も担っています。さらに、日本航空学園が開校したことで生徒、教職員を含め、800人を超える人口の増加、地元の雇用拡大さらには消費等大きな経済効果となっております。

開港後の取り組み

(1) 首都圏からの誘客促進と 地元利用の促進

能登空港においては、首都圏からの誘客促進が最も重要であり、そのための取り組みとして、能登のファンづくり・ピーターづくりを目指した「ぶらり能登キャンペーン」の実施や旅行者の立場に立った「ぶらり能登ガイドブック」の作製など利用促進に努めるほか、地元の利用促進に向けては、地元のお年寄りの皆さんによる「能登空港応援隊組織」の存在があります。様々な旅行企画を自ら提案することにも参加者を募り、利用促進に貢献を頂いております。

(2) 空港の賑わい創出と マイ空港意識の高揚

能登空港は、空港利用者のみならず、地域住民の集う交流拠点と位置づけ、年間を通じて、様々なイベントを開催するほか、能登地域の祭り、イベント、特産品などのPR 展示や能登空港への愛着を強く持つってもらうためのPR ソング「のっぴーハッピーのと空港」、のっぴーダンスなど、空港の賑わい創出とマイ空港意識の更なる高揚に向け、取り組んでおります。



穴水町長谷部太鼓



のっぴー雪だるま(能登空港マスコットキャラクター)



空間展示 三崎寺家地区のキリコ絵(ターミナルビル内)

開港20周年に 向けて

能登空港は、多くの方のご努力により手に入れた能登の財産であります。この能登空港の更なる利用促進と空港を核とした地域の振興に取り組んで行くことが必要と考えています。

具体的には、1年後の北陸新幹線の金沢開業や能越自動車道の開通など能登空港を取り巻く環境が大きく変化の中で、これからも能登地域の拠点としての役割を果たしていくためには、これまでの視点と異なることも取り入れながら、更なる利用促進を図る必要があります。10年という大きな節目を迎えた能登空港の今後、更なる飛躍に向け引き続き、全力で取り組んで参りたいと思っております。



能登空港 H24.11.25撮影



行政のささやき

Gyousei no Sasayaki



Noto Satoyama Kaido

無料化に至る経緯

能登有料道路や川北大橋有料道路等は、有料道路制度を活用することにより、通常の道路事業より極めて早期かつ短期間に高速サービスの実現を図ったものであり、これまで、能登と加賀を結ぶ大動脈として、地域経済の振興、住民生活の向上に大きく貢献してきました。

こうした中で、早期無料化に関する地元住民の方々からの要望を踏まえ、県は道路公社への出資金等約135億円を全額放棄することにより、平成25年3月31日正午に無料化を前倒して実施することとしまし

はじめに

石川県内にある有料道路3路線（能登有料道路、川北大橋有料道路、田鶴浜道路）が、平成25年3月31日正午から無料になりました。この無料化は、平成26年度末の北陸新幹線金沢開業の効果を県内全域に波及させることを目的として実施したものです。

能登有料道路



田鶴浜道路



川北大橋有料道路



能登有料道路の新愛称

有料道路3路線のうち、「能登有料道路」については、昭和57年の全線供用時に付けられた愛称であり、無料化後も引き続き、県民や観光客の皆さんに親しんでもらえるよう、平成24年5月から1ヶ月間、新しい愛称を公募しました。

全国47都道府県から4千件を超える応募があり、世界農業遺産に登録された「能登の里山海」や、日本の素朴な原風景が残る「ふるさと」である能登へ誘う「みち」というイメージから、新たな愛称を「ふるさと紀行」の「と里山海道」に決定しました。

のと里山海道

～無料化後の維持管理について～

Noto Satoyama Kaido
About maintenance after the charge-free



石川県中能登土木総合事務所
次長(のと里山海道担当)
高谷 文夫

別所岳SAでの
記念碑除幕式
(H25.3.31)



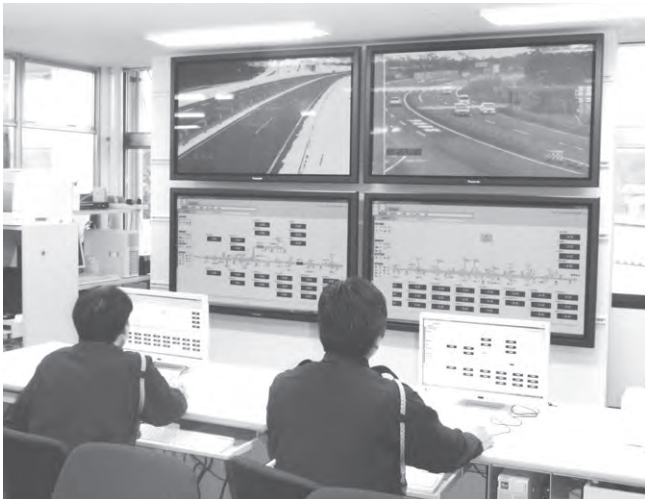
管理体制

無料化後も、自動車専用道路としての安全な高速走行を維持するとともに、道路補修や道路情報の提供など迅速かつきめ細やかに対応するために、道路パトロールや維持管理、除雪などの日常管理を、中能登土木総合事務所のと里山海道維持管理課（庁舎は羽咋市寺家町に所在）にて、旧道路公社時代と同様に24時間体制で一元的に行っています。

具体的には、

- ・平日、休日を問わず、1日に4回の道路巡回（4時、9時、13時、19時）
- ・積雪5cmから機械除雪を実施
- ・構造物定期巡回点検（1回／年）

により、無料化後も変わらぬ高速サービスを提供することとしています。



道路管制状況

無料化に対応する安全対策

無料化後には大幅な交通量増加が見込まれたことから安全対策として、平成24年度末までに、インターチェンジの出口に逆走車両の進入を音（ブザー）、光（回転灯）、文字（表示板）で警告する装置を4車線区間に全14箇所設置したほか、有料時に料金所から得ていた道路情報を料金所撤去後にも的確に把握し対応できるよう、道路監視カメラを5基増設し、また、供用後30年以上経過し老朽化した道路情報管制システムや道路情報板の更新などを行いました。

また、不要となった全料金所ブースの撤去は、供用しながらの施工となるものの、通行車両の安全を確保しつつ、工程短縮に努めた結果、夏休み前の7月19日までに今浜を除く料金所の工事を完了させ、規模の大きい今浜料金所については旧盆前までに完了させました。



逆走防止装置

- さらに今年度は、
- ・動物飛び出し注意を喚起する警戒標識の設置（情報板の少ない柳田以北に6基）
 - ・凍結注意標識の増設
- など、きめ細やかな安全対策を行いました。

等は平成26年春の完成を予定しています。

おわりに

無料化により交通量が大幅に増加しましたが、のと里山海道は、能登と県都金沢を直結する大動脈であり、観光や物流、さらには生活道路でもあります。また、災害時においては最優先に確保しなければならぬ第1次緊急輸送道路にも指定されていることから、県民にとって大変重要な道路です。今後とも、自動車専用道路として安全で安心かつ快適にご利用頂けるよう、適切に維持管理してまいりたいと考えています。

SA、PAの リニューアル

無料化により交通量が増加した結果、

能登地域への交流人口そのものが拡大しており、その効果を能登全体の賑わい創出へとつなげるべく、今年度、のと里山海道の利便性、魅力向上を図るため、SA、PAのリニューアル工事を実施しています。

志雄PAについては、EVスタンドを設置したほか、日本で唯一砂浜を車で走ることができる「千里浜なぎさドライブウェイ」の魅力を感じられるよう、上下それぞれのPAから徒歩で砂浜に出入りできる遊歩道を整備するとともに、イベン

ト広場を整備しました。また、西山PA（下り）については、EVスタンド設置のほか、利用台数の増加に伴って駐車スペースが不足していたことから、駐車場の拡張を行いました。

平成25年10月26日に志雄PA、西山PA（下り）のリニューアル工事が完成し、知事出席のもと、完成を祝う会が盛大に行われました。

また、別所岳SAについては、展望台

である「能登ゆめらす」や奥能登2市

2町による特産市の利用促進を図る

ため、トイレの建て替えや上下線のS

Aをつなぐ連絡道路の整備を行うこ

ととしており、まずは、平成25年11月

16日にトイレが完成し、残る連絡道路

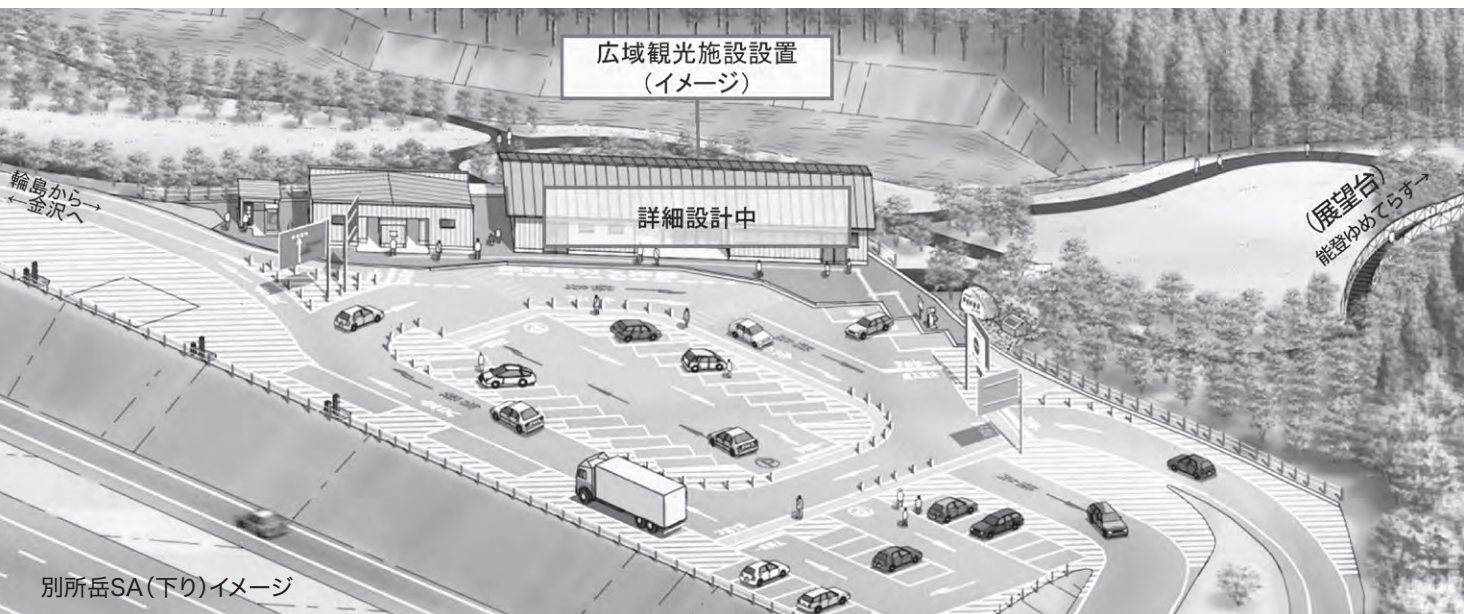


▲志雄PA(上の写真)

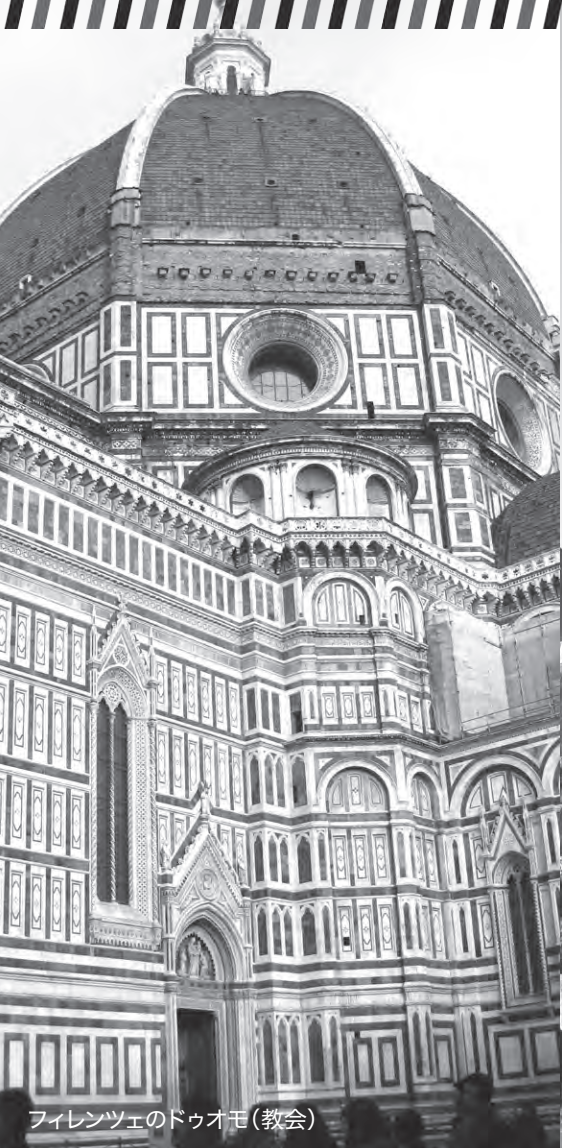
▲西山PA(下り)(下の写真)

能登有料道路、田鶴浜道路、川北大橋有料道路の無料化に伴い、みちカード、回数券、割引通行券の払い戻しを行っております。

*お問い合わせ先
のと里山海道維持管理課 ☎0767-22-6090
〈お早めにお問い合わせ下さい。〉



別所岳SA(下り)イメージ



FREE TALK 2013

ヨーロッパ人旅

フィレンツェのドゥオモ(教会)

モン・サン・ミッシェルの全景

また、道に迷った時、交通手段が分からなくなった時、人に聞くことに最初は抵抗がありました。しかし、たとえ言葉が通じなくても大体の意味を察し教えてくれるような人当たりの良い方が多く、次第に話しかけることに躊躇いを持たなくなっていました。

旅行の中で印象的だったのは、フィレンツェの町並みです。普段思い描く観光地というイメージとは、英語がさほど得意ではないことと初めての海外一人旅だったこともあり出発前は期待半分、不安半分といったところでした。

そんな私のヨーロッパ旅行を一言で表せば「迷子」でした。事前に道や交通手段を調べてはいたが、ローマやバリの町並みは思っていた以上に広く複雑だったため、頻りに自分の思い描くルートから外れていました。しかし、悪いことはかりではなく、少し細い道に入ればツアーなどでは見ることでできない風景や住民の生活の姿が覗くことができ、これも一人旅の楽しみの一つではないかと感じました。



株式会社エオネックス
割田 翔

大学4年の秋、私は以前から行きたかったイタリアとフランスに一週間旅行に行きました。大学生のうちに世界観を広げたい、日本とは異なる文化に触れてみたい、そんなふとした思いから旅行を計画したのですが、英語がさほど得意ではないことと初めての海外一人旅だったこともあり出発前は期待半分、不安半分といったところでした。

この旅で感じたことは、観光客が目に見える部分だけでなく、物事を偏見でとらえるのではなく、少しでも興味が湧いたならまず行動することが重要だということです。社会人となり旅行に行く時間を見つづらくなり、国内外問わず一人旅をしてみたいと考えています。



ローマ パンテオン内にて撮影

ISHIKAWA GEOLOGICAL SURVEY ASSOCIATION

FREE TALK 2013

あの頃の旅の思い出や新しくチャレンジしたこと、また、日常生活でのあんなことやこんなこと...自由気ままにトークしちゃうコーナー。ぜひ、読んで一息してみてください。

Thama_1.

ヨーロッパ人旅

Thama_2.

私と弁天夢太鼓

Thama_3.

従事して感じることは...

memories of toursim and
happy enjoyed shopping
bur, It happend to desc

FREE TALK 2013

従事して感じることは...



自然と調和し、達成感を...

『能登はやさしや土までも。』
海があり、満天の星空、水や空気、魚が美しいのも大変気に入った。幸い、前職は週休2日制であったこともあり、週末には昼夜を問わず能登の自然を、海釣りやドライブで思う存分満喫することができた。
デスクワークは嫌いではなかったが、一日中パソコンに向かい、長時間座っていて腰痛持ちになったのだ。年々足腰が衰えてゆき、頭まで老化していくような錯覚と危機感さえ感じるようになり、「限りある人生、もっと自然と調和し、体を動かしながら達成感のある仕事に従事してみたい。」そう考えていた頃に、今の会社と出会った。調査ボーリングの仕事は社会的にも極めて重要な職種であると認識している。問

大阪府茨木市に生まれ、学生時代まで関西で過ごした私が、両親の故郷である石川県七尾市で就職したのが約20年前、まだコンビニエンスストアも普及していなかった時のことである。「また何で七尾に?」と当時はよく聞かれたものだが、毎年春夏秋冬の休みに祖父母宅に帰省しており、四季折々の変化に富んだ北陸の自然環境の素晴らしさに魅了されたのが直接のきっかけだ。



古一地下開発株式会社

中村 陽一

題は自己の体力と知力が追いついてくるか否かである。どんな仕事でも必要要素は、過去のデータと経験。そしてイメージ。マジンガーだと言われている。異業種参入組で新参者の私は、スーパーな存在である親方の指導を仰ぎながら、その全ての要素が欠如している為、日々四苦八苦しているところだ。
父親が地質調査の仕事をしていて、学生時代にアルバイトの経験をしたことがある友人からは、「ボーリングの仕事はね、肉体的に、最初と終わりが大変だ。最初というのは、仕事をはじめた時のことで、慣れないし、筋力も無い、コツも分からずただ無駄に力を浪費して疲れる。終わりというのは、体力の低下だ。年齢による体力の低下は、そのうちに蓄積してきた知力だけではカバーできなくなるんだよ。」と聞いている。
市街地や山奥から海上、ユニックやモノレール、ポートまで臨機応変に幅広く対応できないばではない調査ボーリングの仕事は、間違いなく想像以上にハイレベルである。一日の作業を終え、事務所に帰ってボーリング日報を書く親方の姿が、フィールドワークを終えた後の研究者のように見えてならない。
たかが土、されど土、これ程奥深い世界はそう多くはないだろう。

弁天夢太鼓



FREE TALK 2013

私と弁天夢太鼓



大谷川 鯉のぼりフェスティバル

「弁天夢太鼓」はキリコ太鼓、やつぶし、山太鼓の三つを組み合わせ、蛸島のキリコ祭りを表現しています。蛸島小学校では祭りが近づいてくると、月一で弁天夢太鼓の方々が太鼓を教えに来てくれました。私はそこで太鼓と出会い、太鼓が大好きになり、それから祭りになるとキリコに上がって太鼓を叩くようになりました。今はそのきっかけを与えてくれた弁天夢太鼓に入り、太鼓の練習に励んでいます。
弁天夢太鼓に入りたいと思ったのは、毎年お盆に行われる「太鼓と踊りの夕べ」を見たのがきっかけです。高校一年の時に友達と披露されている太鼓や踊りを、他愛もない話をしながら見ていました。多分友達とお喋りが楽しくて殆ど見ていかなかったと思います。そして弁天夢太鼓の番になり、蛸島の笛の音色が聞こえてきたのです。「こんな聴いたらよ祭りしたくなるねえ」と友達とうつとりしながら聴いていたのですが、その真つ直ぐと高らかに伸ばされた腕の先には、夜空を指すようにあげられたバチ。それが勢いよく太鼓に打ちつけられたと同時に、辺りが震えました。勇ましく響く太鼓、しなやかな笛の音色、賑やかな鐘の音、全てが合さり、全身に響き渡りました。女の人のキラキラとした笑顔も、男の人の迫力ある山太鼓も、全てが私を虜にしました。いつの間にか友達とのお喋りはなくなり、全身には気持ち悪い



能登建設株式会社

田中 佑里恵

程の鳥肌。今まで何度も弁天夢太鼓を見てきましたが、この時初めて心で見て心で聴けた気がします。そして、あの人のように自分も太鼓を叩きたいと強く思いました。
早速二ヶ月後の十月に弁天夢太鼓に入らせてもらい、練習が始まりました。太鼓を練習していく過程で一番手間取ったのがやつぶしです。リズムはとりやすく、小ばいは複雑。半泣きになりながら練習しました。キリコ太鼓とやつぶしがある程度出来るようになるまで、本格的に全体を通す練習に入れない、焦燥感が募るばかりでした。それになかなかコツをつかめず、分かつてはいましたが理想と現実とは全く違うということを改めて実感しました。太鼓の練習が憂鬱になったりしましたが、小ばいができないのが悔しいし、早く上達して皆と太鼓を叩きたかったため、少しずつ練習に行きました。それから少しずつ上達していき、出演の出番も増え、一層太鼓に熱が入り、とても楽しくなっていました。
弁天夢太鼓に入り今年で早三年。最初はただ「太鼓を叩きたい」「上手になりたい」と自己満足で終わっていました。しかし、沢山出演させていたでいる内に、太鼓を見てくれている皆さんの笑顔や拍手、応援が私の原動力となりました。そして、今は「皆さんに太鼓を楽しんで観てもらいたい」と思うようになりました。パフォーマンスポイント、どれもまだまだ未熟ですが、もっと色々な場面を経験して体力もつけて、太鼓に精進したいです。

社長のつぶやき

Topics.
01

旅のつぶやき

Mutter of the trip



株式会社カナイワ
代表取締役
普輪崎 賢彦

東京オリンピック招致が決まり、日本国中が興奮冷めやらぬ頃、縁あってミャンマーへ視察研修旅行に行ってきた。

ミャンマーは軍事政権ではあるが、現在の大統領とスーチー女史が協力し、民主化が進んでいる国である。現在は貿易が増え、特に車が自由に輸入できるようになり、車の台数がこの数年で増え、その90%が日本の中古車であった。日本円で100万円〜200万円するそう。生活用品の輸入も増加し、日本製品の人気は1位だが、値段が高く富裕層にしか買えないそう。一般的にはタイ製品、韓国製品の人気が高いそうだ。因みに日本の100円ショップもあるが、庶民には買えないとのこと。それ以外は、一般的な労働者の月給は1万〜2万円だからである。やはり貧富の差が大きく、一部の富裕層は一人に

1台の高級車を持っているが、少し郊外へ行くと観光客に子供が物売りをする姿、親が赤ちゃんを抱いて物乞いする姿も見受けられた。国民性は真面目で、勤勉、歴史的背景からも親日の国である。日本の大手企業の進出が増え始め、それに伴い日本語学校への進学や日本への留学希望者が増えているそうだ。

さて、視察でとある縫製工場を訪れた。その企業は、日本の有名ショッピングセンター向けに洋服を作っていた。よく目にするブランドの洋服であった。各工程がラインで結ばれ、各ラインにはノルマがあり、その品質と出来高で競い、優秀な成績のラインにはボーナスが支給されるなど、様々な工夫がなされ、その仕事ぶりは真剣そのものであった。また、他の工場では、詳細は割愛するが日本へ留学生を派遣し、日本の技術をその工場

に取り入れ、業務を拡大する戦略を立てていた。この国は元々天然ガス、金、宝石など資源があり、何よりも今の国民は、豊かさを求める情熱に溢れており、どの企業も知恵を絞って仕事をしていた。これから発展する国と言われることに納得ができた。

外国へ行くと思わず思うことは、いろんな面で、日本ほど恵まれた国は他にはないということ。そしてそれゆえに、私を含めて日本人は贅沢病になっているということだ。かつての日本人は戦後の焼け野原からわずか19年で東京オリンピックを開催するまでに至った。これは並大抵のことではなかったと思う。当時の世界情勢など幾つか追い風の要素もあったとは思うが、やはり今の日本人が忘れてけている「日本人の魂」がそこにあったからだと私は思う。私たち日本人には、そのDNAが間違いなく

受け継がれている。日本の歴史をもっと学び、そしてこれまでの日本人の功績を受け継がせて頂いている日本人であることに誇りを持って生きて行きたいと、今回の旅は改めて感じさせてくれた時間だった。

6年後、東京オリンピックが開催される。日本には財政再建と経済対策の両立、福祉の問題などいくつもの課題がある。より良い日本になるための鍵は、私も含めて、日本国民が本来持っているDNAにスイッチが入るかどうにかかっているのではないだろうか。

6年後の日本、そしてミャンマーが、どのように発展して行くのか今から楽しみである。

2020年、それまでに私自身も少しは成長し、日本の発展を肌で感じながら、東京オリンピックとミャンマーを見に行こうと思う。

あの日は、いつものように5

時すぎに新聞片手にテレビをつけると各局でオリンピック招致の総会中継を放送していました。東京当選を期待しつつも落選した時にショックを受けないように、負ける場合もあるからという思いで冷静にみていたのですが、IOCのロゲ会長が示した「TOKYO 2020」

の文字を見ると同時に「おお！やった！」と叫んでいました。また、その後の太田選手の涙にも感動し、もらい泣きしてしまいました。

オリンピックと言えば1998年2月、長野で冬季オリンピックが開催されました。当時、珠洲青年会議所の会員だった私は他のメンバー数名と共に長野へ行きボランティアをおこなってき

行隊と呼ばれた船木や原田への歓声と会場の興奮が今でも忘れられません。
1959年5月26日に当時の西ドイツ・ミュンヘンで開催が決定した第18回東京大会ですが、日本では「東京オリンピック組織委員会」がつくれ、国家予算が計上されました。

国家予算の内訳……

・国立競技場などの施設設備	…約164億円
・大会運営費	…約94億円
・選手強化費用	…約23億円

合計約281億円を投入した国家プロジェクトとなったわけですが、(当時の大卒初任給は国家公務員1種で23,300円であつたらしい。)

そして1964年10月10日に

開会された東京五輪により、競技施設、日本国内の交通網の整備に多額の設備投資が行われ、競技や施設を見る旅行需要も喚起されました。また、カラー放送を見るためにテレビの購入も増加したため、日本経済に「オリンピック景気」と言われる好景気をもたらしました。

56年ぶりとなる夏季五輪の東京開催決定は国内経済への波及効果は必至で、その額は3兆円から150兆円とする見方も出ているようです。3兆円の試算の場合、東京都が1兆6753億円、その他の地域が1兆2856億円となっ

ていましたが、その他の地域といても首都圏3県の神奈川県、埼玉県、千葉県がほとんどなのではないでしょうか。新聞報道では、北陸の企業も五輪特需に動き出すと書かれていましたが、本当に疲弊した地方への経済効

果はどのくらい見込めるのか疑問に感じています。
ただ、私は個人的には、経済効果にも興味はありますが、地元開催の夏季五輪はおそらく一生に一度のことです。機会があれば長野のようにボランティアとして参加したり、子供たちと一緒に観戦したり、ぜひ五輪の感動を目の前で味わいたいと考えています。将来を担う子供たちにとって素晴らしい体験ができる機会でもあり、この期待感や興奮は自分自身のモチベーションに繋がっていくと感じています。

いろんな意味で、2020年東京オリンピックの成功を祈念しております。

社長のつぶやき

Topics.
02

2020 東京オリンピック

2020 TOKYO Olympics



株式会社のとさく
代表取締役
明星 加守暢



参加者 53名
場所 休暇村能登千里浜
日時 平成25年11月8日(金) 13時40分～17時20分

平成25年度 北陸技術フォーラムの開催



技術発表会の様子

今年度の北陸技術フォーラムは、石川県の中能登地区にて行われました。1日目の技術発表会では、今後ますます必要性が高まる既存インフラの維持管理に関する事例紹介や、新たな技術への取り組みなどについて、若手技術者による発表が行われました。また特別講演では、長年にわたり県内外で土木技術の発展に尽力されてこられた川村先生(金沢工業大学教授)に、能越道の施工における情報化施工のための新たな試みや、その他豊富な経験に基づいた貴重なお話をいただきました。

2日目の現地見学会では、七尾市内にある能越道の工事現場で実際の施工の状況や、現場で工夫した点など生の声を聴くことができました。また、全国で唯一波打ち際を車で走行できる千里浜海岸の再生プロジェクトについて、さらに志賀原発では再稼働に向けた取り組みの状況などを見学させていただきました。



現地見学会(能越道工事現場)

特別講演



演題

「能越道高盛土施工に関する課題とその対応について」

金沢工業大学教授 川村 國夫 氏



現地見学会(原子力技術研修センター)

平成25年度 技術講演会の開催



鉄道構造物等設計標準・同解説(基礎構造物)の改訂では、最新の知見を取り入れた応答値の算定法や照査方法の見直しが図られ、安全かつ経済的な設計を行えるようになっており、その技術的な話題や事例についてご講演頂きました。

また、地質リスクマネジメントの取り組みや地質リスクの事例等をご紹介頂き、さらには地質リスクの観点から見た東日本大震災についてご講演頂きました。

技術講演会プログラム

「鉄道構造物等設計標準・同解説(基礎構造物)の改訂に関連した各種技術的な話題」

(公財)鉄道総合技術研究所
構造物技術研究部 基礎・土構造 主任研究員

西岡 英俊 氏



「地質リスクマネジメント」

(一社)全国地質調査業協会連合会
技術委員長

岩崎 公俊 氏



参加者 70名
場所 金沢エクセルホテル東急
日時 平成25年10月11日(金) 13時20分～17時30分

経営者研修会



参加者 33名
 会場 石川県地場産業振興センター
 日時 平成26年1月31日(金) 16時～17時40分

平成25年度 経営者研修会の開催



経営者もしくは経営者に準ずる方を対象に経営理念の向上を図るため、次のとおり経営者研修会を開催しました。

演題 「メンター & テロワール」

講師 興能信用金庫
 理事長 数馬 嘉男 氏



講演内容

1. 「見てござる」と「一生懸命の尺度」そして「空元気も元気のうち」

〈一生懸命の尺度〉

一生懸命本気でやれば、何故か面白くなる。
 一生懸命本気でやれば、何故か心が燃えてくる。
 一生懸命本気でやれば、何故か誰かが助けてくれる。
 一生懸命本気でやれば、新しい道が開けてくる。

2. 地域づくりのキーワード：テロワール*

*テロワールとは、土地・風土・地域性・～らしさ
 能登ネットワーク：食・人・交流。
 商工会：能登らしさ。

3. これからのキーワード：メンター*

*メンターとは、良き相談相手、支援者
 金融機関は、企業や地域を元気づけること。
 企業の経営の目的や地域の夢・理想を共に見つけること。
 人と人、地域がつながって企業がある。

4. 行動方針…“feel the heart”

「動く」、「見る」、「考える」を基本とした「挨拶」「清掃」「訪問」の実践。
 コミュニケーション戦略。



講演の様子

平成25年度 安全研修会の開催



今年度の安全研修会は、労働災害を未然に防止するため「労働災害事故防止」の意識を徹底することを目的として、次のとおり開催しました。

研修内容は、第1部で労働災害の法的責任として、労働災害の現状、労働災害発生時の外部組織の反応や企業の責任について、第2部では現場で必要な安全管理活動として、労働災害の事例を含めて実務者側の守るべきものについて、熱く講義していただきました。

労働災害防止に対しては、基本的な知識や取り組み方を繰り返し認識していくことが重要であり、意義のある研修になったと思います。

研修内容

〈第一部〉 労働災害の法的責任

〈第二部〉 現場で必要な安全管理活動

講師

小林労働安全コンサルタント事務所
 所長 小林 隆夫 氏



安全研修会



参加者 24名
 会場 石川県地場産業振興センター
 日時 平成26年1月24日(金) 13時～16時

ひと工夫した新型「パイプひずみ計」

パイプひずみ計に、2m連結タイプが登場。計測点数が30点を超える場合特におすすめです。ケーブルが半分で済むので埋設の手間が大幅減少です。

「2種類」のアルミガイドパイプ

孔内傾斜計用アルミガイドパイプに新製品が登場！2011年工場の直営化を機に、従来の肉厚2.0mmに加え1.5mmタイプを新たにご用意いたしました。深度や環境などに応じて、最適な埋設方法をお選びいただけます。

「インターネット」でできる地すべり監視

最新のデータとグラフをインターネットで閲覧できます。
警報機能も充実。現地警報出力に加え、警報用メールを一斉送信できます。
2011年の台風12号による「せきとめ湖」発生エリアにて、多数採用いただきました。

土砂災害のための「無線」警報システム

土砂災害においては、何より緊急性が求められます。このたび、「ソーラー式無線警報システム」の、無線ならではの設置・撤去の迅速性、運用の利便性が認められ、2011年の台風12号による災害時に採用いただきました。（和歌山県那智勝浦ほか）

お問い合わせはこちらまで。
詳しい資料をお送りします。

株式会社 測商技研北陸

〒920-0058 石川県金沢市示野中町2丁目8-5
TEL・・・076-232-3900 FAX・・・076-222-3334
ホームページ <http://www.sokuhoku.co.jp>
電子メール info@sokuhoku.co.jp

お待ちしております♪



“地すべり対策に”

抑止杭

鋼管杭	新日鐵住金株式会社
Gパイル	株式会社 クボタ
深礎杭(ライナープレート)	日鉄住金建材株式会社

堰 提

鋼製自在粧	同 上
-------	-----

土留壁

鋼製簡易土留壁	同 上
---------	-----

集水井

ライナープレート	同 上
----------	-----

水 抜

ビニールパイプ	積水化学工業株式会社
---------	------------

ポリFRP管

さく井用ケーシングパイプ	株式会社 栗本鐵工所
--------------	------------

N.S.T.スクリーン

株式会社 日 さ く



上記製品取扱店

株式会社 辻 さ く

取締役社長 辻 亮 一

〒921-8555 営業本部 金沢市増泉5丁目1番地30号
TEL (076) 243-7731 FAX (076) 243-3876

富山営業所・小松営業所・能登営業所

TEL (076) 432-5310 TEL (0761) 21-7077 TEL (0768) 52-8585

許可番号 石川県知事 許可(般-21)第2391号

一般社団法人 石川県地質調査業協会

〒920-0059 金沢市示野町西7番地
TEL(076)267-3244
FAX(076)267-3271
http://www.ishikawa-geo.or.jp
E-mail info@ishikawa-geo.or.jp

正 会 員

役 員	会 社 名	代表者	郵便番号	住 所	電話番号	FAX
理 事	アルスコンサルタンツ(株)	大 深 伸 尚	921-8116	金沢市泉野出町2-1-1	076-248-4004	248-4174
	(株)エオネックス	市 山 勉	920-0209	金沢市東蚊爪町1-19-4	076-238-1181	238-9781
	(株)カナイワ	普 輪 崎 賢 彦	921-8027	金沢市神田2-9-19	076-244-6447	244-6407
	興信工業(株)	室 谷 信 子	927-0624	鳳珠都能登町字時長45-65	0768-72-1223	72-1224
	国際地研(株)	松 村 忠 雄	920-0017	金沢市諸江町下丁428	076-237-5758	237-4356
監 事	(株)大一開発	河 上 公 輝	929-0326	河北郡津幡町字清水ト312-2	076-288-4595	288-3474
	中部地下開発(株)	渡 部 友 則	920-0205	金沢市大浦町ハ51-1	076-237-5000	237-0600
	中部地質(株)	伊 藤 清 春	921-8061	金沢市森戸1-228	076-240-7887	240-7757
常務理事	東亜鑿泉工業(株)	吉 田 信	925-0022	羽咋市深江町ヲ36-2	0767-22-3155	22-3241
	(株)日研技術	泉 正 博	921-8015	金沢市東力4-21	076-291-8180	291-5010
理 事	能登建設(株)	矢 野 好 二	927-1454	珠州市三崎町宇治ヨ部129-1	0768-88-8800	88-8811
	(株)のとさく	明 星 加 守 暢	927-1215	珠州市上戸町北方い部31-1	0768-82-0111	82-6126
	古一地下開発(株)	古 一 力	926-0044	七尾市相生町40	0767-52-4467	52-4704
会 長	(株)ホクコク地水	尾 蔵 博	921-8021	金沢市御影町25-1	076-241-7158	243-2422
副 会 長	北海技建(株)	高 木 仁 志	925-0014	羽咋市釜屋町ノ44-2	0767-22-6618	22-6268
	宮下建設(株)	越 渡 伸 廣	927-2151	輪島市門前町走出3-50	0768-42-1138	42-1344

賛助会員

役 員	会社名	取扱商品	代表者	郵便番号	住 所	電話番号	FAX
監 事	(株)辻 さ く	銅管・銅材・ビニール管・各種動力ポンプ	辻 亮 一	921-8555	金沢市増泉5-1-30	076-243-7731	243-3876
	(株)丸 菱	各種試験機・観測機器・測量機械・事務機器	米 浜 俊 一	920-0061	金沢市問屋町2-20	076-237-8811	237-8810
	(株)測商技研北陸	各種地すべり測定器・気象観測機・各種精密測定器製造販売管理	舘 中 憲 次	920-0058	金沢市示野中町2-85	076-232-3900	222-3334
	東邦地下工機(株) 金沢営業所	ボーリングマシン・ポンプ・ミキサー・小口径推進器・各種付属品	河 内 弘 志	920-0047	金沢市大豆田本町甲275第2春日ハイ105号	076-235-3235	235-3240
	(株)ドゥーイング	ポスター・パンフレット・カタログ・DM・チラシ・ホームページ制作	橋 田 優	921-8112	金沢市長坂3-13-9	076-241-8500	241-8182

(一社)石川県地質調査業協会	事務局長	西 村 修	920-0059	金沢市示野町西7	076-267-3244	267-3271
----------------	------	-------	----------	----------	--------------	----------

TOHO

試錐機 D0-D型

TOHO drilling equipment

ロックボルト専用機

エアークッド

(AK-01型)

NETIS登録番号QS050008-V

全エア一掘削

全エア駆動方式で掘削が可能のため、ランニングコストを削減！
エアホース配管のみで作業開始が可能、段取時間短縮に大いに貢献！

ST集排水工法

NETIS登録番号HR990020
地すべり対策の排水・集水工事の新工法として地下水の効率的な排除を考慮した新工法

東邦地下工機株式會社

東京・札幌・仙台・新潟・金沢・名古屋・大阪・松山・広島・山口・福岡

金沢営業所 金沢市大豆田本町甲275-105 TEL(076)235-3235 FAX(076)235-3240

土質試験のことなら ISO 9001:2008 認証取得

協同組合土質屋北陸

(旧石川県土質研究協同組合)

北陸初

土の繰返し非排水三軸試験機

各種土質試験電子納品対応済(国交省、農水省、石川県、NEXCO各社)

1

DOSHITSUYA HOKURIKU

— たとえるなら土のソムリエ —

確かな土質情報をサポートします。

理事長 市山 勉

〒920-0059 石川県金沢市示野町西7番地
TEL (076) 268-4666 FAX (076) 268-4510
ホームページ http://www.doshitsuya.or.jp
メールアドレス info@doshitsuya.or.jp



編集後記

今年度も大変お世話になり、ありがとうございます。

昨年春に、私は総務広報委員長の役を受け、頼りないながらも、皆さまのお力添えによりお陰様で素晴らしい広報誌を仕上げる事ができました。特に加賀市の宮元新市長との面談では、当協会の尾蔵会長、市山担当理事らと共に新市長の期待に満ちあふれた素晴らしい対談の取材ができました。また『世界農業遺産のシリーズ』では、珠洲市、能登町、穴水町の行政をあげての大変前向きに取り組んでおられる姿に感銘をうけました。『行政のささやき』では、能登空港開港以来10年のあゆみと、今後の大いなる飛躍に向けての意気込みを強く感じました。

のと里山海道の記事では、能登の経済振興の大きな役割を担っている高速道路の無料化による交通量の増加と道路の維持管理の対応の努力に敬意を表します。また、『フリートーク』では、ヨーロッパ旅行、弁天夢太鼓、日常の仕事への取り組み、『社長のつぶやき』では、ミャンマー、東京五輪の話など、大変貴重なお話をありがとうございました。『地質いしかわ』の会誌に寄稿をいただいた皆さまには、心から感謝いたします。

昨年の年末の締めくくりとして、『今年の二文字』を、今年は広報編集委員の皆さまに公募したものを掲載させて頂きます。

なつ

今年の夏は特にあつかった。

中村副委員長

なみ

政治・経済の動き、原発事故の影響、富士山世界遺産、東京五輪等々、様々な分野に大きな波があつたと感じたことから。

坂下副委員長

ぞく

一步一步進んで行きたいという気持ちで”続”としました。

畠中委員

うそ

偽装あり、嘘や虚偽ありの一年であつたと感じたため。

渡辺委員

いま

今年の流行語「今でしょ」もそうだが、今年は今から・・・する。これは今までにしとこうということが多い1年でした。

日比委員、三橋委員

あべ

1年間、毎日あべ(安倍)と言う文字を耳にしない日は無かつたと思います。

野田委員

あせ

今年はなぜか「あせあせした1年」であり、

またいろんな意味で「汗をかいた1年」でありました。来年は、もう少し気持ちにゆとりをもつてがんばりたいと思いますので、皆様、よろしくお願い致します。

松村委員

ゆい

結(ゆい)、辞書で引いてみますと、(主に小さな集落や自治単位における共同作業の制度である。一人で行うには多大な費用と期間、そして労力が必要な作業を、集落の住民総出で助け合い、協力し合う相互扶助の精神で成り立っている)と書いてありました。今年はこの言葉が身にしました。

宮下委員長

今年も一年、皆さまにご協力いただき、よりよい広報誌を作ってまいりたいと思いますのでどうぞよろしくお願い致します。

総務・広報委員会

担当理事	市山 勉	(株)エオネットクス
担当理事	矢野 好二	能登建設(株)
編集長	宮下 正久	宮下建設(株)
副編集長	中村 有宏	(株)ホクコク地水
編集員	坂下 裕平	中部地下開発(株)
編集員	畠中 信英	(株)エオネットクス
編集員	熊倉 甚一	(株)カナイワ
編集員	三橋 洋一	興信工業(株)
編集員	松村 英樹	国際地研(株)
編集員	日比 輝夫	(株)大一開発
編集員	吉田 良雄	東亜鑿泉工業(株)
編集員	野田 康正	(株)のとさく
編集員	渡辺 剛志	古一地下開発(株)
編集員	石尾 辰巳	北海技建(株)

